

審査意見への対応を記載した書類（6月）

目 次

現代システム科学域 心理学類

No.	審査意見	ページ
【設置の趣旨・目的等】		
1.	【全体計画審査意見1の回答について】 「心理学類は実験心理学と臨床心理学を融合的に学ぶ」との説明があるが、設置の趣旨等を記載した書類（p 10）の図においては、心理学類は臨床心理学及び認知行動学から構成されているように見受けられることから、適切な内容であることを説明するか、必要に応じて改めること。 (是正事項)	2
【教育課程等】		
2.	【全体計画審査意見3の回答について】 「データ科学」のように、現代システム科学域 PBL プログラム履修課程に含まれ、かつ学類関連科目にも含まれる科目があるが、このような科目を履修した場合、どの区分で単位認定されるのか明確にすること。 (是正事項)	7
【書類不備】（その他）		
	誤記や不備に伴う修正	29

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（是正事項）現代システム科学域 心理学類

1. 【全体計画審査意見1の回答について】

「心理学類は実験心理学と臨床心理学を融合的に学ぶ」との説明があるが、設置の趣旨等を記載した書類（p.10）の図においては、心理学類は臨床心理学及び認知行動学から構成されているように見受けられることから、適切な内容であることを説明するか、必要に応じて改めること。

（対応）

御認識のとおり心理学類は、「実験心理学と臨床心理学を融合的に学ぶ」を目的としているところであるが、「大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類」p.10に記載の「新大学における現代システム科学域の位置付け」表には御指摘のとおり「臨床心理」及び「認知行動」の記載が残っていた。また、御指摘を踏まえて心理学類に関する書類を精査したところ、現代システム科学域の「設置の趣旨等を記載した書類」において、心理学類が扱う専門領域について「実験心理学」と「臨床心理学」と記載している箇所と、「認知科学」、「社会・環境心理学」、「臨床心理学」と記載している箇所が混在していた。

心理学類で扱う「認知科学」は「実験心理学」に含まれる「知覚心理学」「認知心理学」であり、「社会・環境心理学」も同じく「実験心理学」に含まれる。そのため、本申請において、「認知科学」、「社会・環境心理学」、「臨床心理学」という記載を、「実験心理学」と「臨床心理学」に統一するように修正する。

また、御指摘の「大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類」p.10に記載の「新大学における現代システム科学域の位置付け」表で示す各学類における主な教育研究分野については、心理学類以外の学類においても、全体計画審査における意見及び第一次専門審査における意見において整理した各学類における主な教育研究分野と齟齬があるため、次のとおり修正する。

現代システム科学域 各学類における主な教育研究分野

知識情報システム学類	情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学
環境社会システム学類	自然環境学、社会環境学、環境哲学・政策学
教育福祉学類	社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論
心理学類	実験心理学、臨床心理学

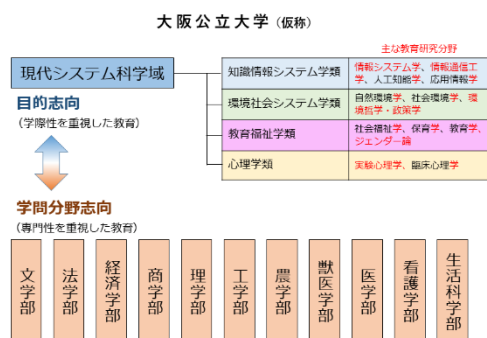
（新旧対照表）大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）10 ページ） 〔2〕大学の特色（大学・大学院）	（設置趣旨（本文）10 ページ） 〔2〕大学の特色（大学・大学院）

1. 大阪公立大学及び大阪公立大学大学院
に設置する教育研究組織

(略)

新大学における現代システム科学域の位置
付け



主な教育研究分野

知識情報システム学類

情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学

環境社会システム学類

自然環境学、社会環境学、環境哲学・政策学

教育福祉学類

社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論

心理学類

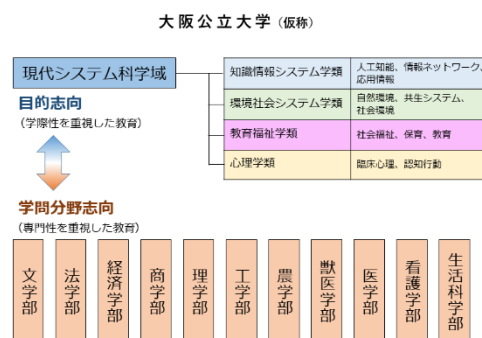
実験心理学、臨床心理学

(略)

1. 大阪公立大学及び大阪公立大学大学院
に設置する教育研究組織

(略)

新大学における現代システム科学域の位置
付け



知識情報システム学類

人工知能、情報ネットワーク、応用情報

環境社会システム学類

自然環境、共生システム、社会環境

教育福祉学類

社会福祉、保育、教育

心理学類

臨床心理、認知行動

(略)

(新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) 14 ページ)	(設置趣旨 (本文) 14 ページ)
1 設置の趣旨及び必要性	1 設置の趣旨及び必要性
イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー	イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー
(1) 人材養成の方針	(1) 人材養成の方針
(略)	(略)
[心理学類]	[心理学類]
初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学	初年次の学域共通科目として、サステナビリティの概念とシステムの思考力を学

ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「心理学概論」において、心理学類が養成する人材像と、心理学の基礎について学ぶ。さらに、学年進行に合わせて実験心理学、臨床心理学などの知識や能力を身につけ、公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

(略)

(設置趣旨 (本文) 18 ページ)

(2) ディプロマポリシー

(略)

[心理学類]

心理学類では、現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

(知識・技能)

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、実験心理学、臨床心理学など、心理学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

ぶ4つの「システムとサステナビリティ」科目を履修したのち、「心理学概論」において、心理学類が養成する人材像と、心理学の基礎について学ぶ。さらに、学年進行に合わせて認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学などの知識や能力を身につけ、公認心理師の資格取得、公務員、カウンセラーなどへの進路を見据え、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を目指す。

(略)

(設置趣旨 (本文) 18 ページ)

(2) ディプロマポリシー

(略)

[心理学類]

心理学類では、現代社会に生きる人々が、他者や社会、文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識・技能とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。

このような目的に従い、以下の能力を持つものに対して学位を授与する。

(知識・技能)

1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学など、心理学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。
2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションすることができる。

(思考力・判断力・表現力) 3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。 4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。 5. (領域横断的応用力) 実験心理学、臨床心理学など、心理学およびその関連領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。 6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。 (サステナビリティ志向性) 7. (倫理観) 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。 8. (サステナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。 (略) (設置趣旨 (本文) 23 ページ) 3 学部・学科等の名称及び学位の名称 ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由 (略) (1) 学域の名称を当該名称とする理由 本学域では、地球温暖化や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値	(思考力・判断力・表現力) 3. (データ活用力) データを収集・活用することのできる知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。 4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探求することができる。 5. (領域横断的応用力) <u>認知科学</u>、<u>社会・環境心理学</u>、臨床心理学など、心理学およびその関連領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。 6. (表現力) 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策を適切な表現法を用いて説明することができる。 (サステナビリティ志向性) 7. (倫理観) 人と社会の相互作用の中で生じる心の問題を解決することの重要性を理解し、現代社会システムの一員としての高い倫理観を有している。 8. (サステナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。 (略) (設置趣旨 (本文) 23 ページ) 3 学部・学科等の名称及び学位の名称 ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由 (略) (1) 学域の名称を当該名称とする理由 本学域では、地球温暖化や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値
---	--

観の違いによる国家・地域間の対立、都市域における格差社会や高齢社会の問題、心の病と生きる意味の喪失など、現代社会が抱えるさまざまな課題を解決するため、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学、自然環境学、社会環境学、環境哲学・政策学、社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論、実験心理学、臨床心理学といった幅広い分野の知識や技能を修得し、領域横断的応用力とシステムの思考力を身につけることにより、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とすることから、学域名称を現代システム科学域とした。 (設置趣旨 (本文) 32 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 ア 教育課程の編制方針 (カリキュラムポリシー) [心理学類] (略) 4. 実験心理学、臨床心理学などの心理学およびその関連領域の知識を修得させるため、基礎教育科目、学類専門科目 (「認知科学 1 (知覚・認知心理学)」、「社会・集団・家族心理学」、「臨床心理学概論」など)、学類関連科目を体系的に配置する。 (略)	観の違いによる国家・地域間の対立、都市域における格差社会や高齢社会の問題、心の病と生きる意味の喪失など、現代社会が抱えるさまざまな課題を解決するため、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学、自然環境学、社会環境学、環境共生学 (政策科学、環境哲学・倫理学)、社会福祉学、保育学、教育学、ジェンダー論、認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学といった幅広い分野の知識や技能を修得し、領域横断的応用力とシステムの思考力を身につけることにより、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育てることを目的とすることから、学域名称を現代システム科学域とした。 (設置趣旨 (本文) 31 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 ア 教育課程の編制方針 (カリキュラムポリシー) [心理学類] (略) 4. 認知科学、社会・環境心理学、臨床心理学などの心理学およびその関連領域の知識を修得させるため、基礎教育科目、学類専門科目、学類関連科目を体系的に配置する。 (略)
--	---

2. 【全体計画審査意見3の回答について】

「データ科学」のように、現代システム科学域 PBL プログラム履修課程に含まれ、かつ学類関連科目にも含まれる科目があるが、このような科目を履修した場合、どの区分で単位認定されるのか明確にすること。

(対応)

御指摘のとおり PBL プログラムで履修した科目の卒業単位への算入方法に関する説明が不十分であったため、設置の趣旨等を記載した書類 (P53～P54) の卒業要件表の上に、以下の文章を加える。

「一方、PBL プログラムについては、全ての学類における卒業要件として、いずれかのコース1つ以上履修することとしている。各 PBL プログラムは、PBL 演習及び4科目以上の講義科目等から構成し、プログラムごとに PBL プログラム上の必修科目や選択必修科目を設定している。PBL プログラムごとに設定した PBL 演習 (2 単位) 及び4科目 (8 単位) 以上を修得することで PBL プログラムを修了することができる。

各 PBL プログラムを構成する講義科目等の単位の考え方は、講義科目等は総合教養科目、基礎教育科目、学類基盤科目、学類専門科目のいずれかであるため、PBL プログラムに含まれる科目であっても、総合教養科目は総合教養科目として、基礎教育科目は基礎教育科目として、自学類専門科目は自学類専門科目として卒業要件単位に算入する。また、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類においては、自学類基盤科目は自学類基盤科目として卒業要件単位に算入する。各 PBL プログラムに含まれる PBL 演習、他学類基盤科目、他学類専門科目は、PBL プログラム科目として卒業要件単位に算入する。ただし、心理学類のみに置かれる学類関連科目について、心理学類の学生が履修した場合には学類関連科目として卒業要件単位に算入する。

学生は、履修する PBL プログラムを決める前に、複数の PBL プログラムの授業科目を履修することができる。「PBL プログラム履修課程」に含まれる授業科目は、最終的に選択したプログラム以外の授業科目も含めて、全て上記の基準で卒業要件単位に算入する。

以上のような仕組みにより、同一の PBL プログラムの授業科目と各学類の履修要件の授業科目を重複して卒業単位に算入することがないこと、学生の負担が過剰にならないことを両立する。」

御指摘の「データ科学」の単位の考え方は、例えば心理学類の学生が PBL プログラム「ビジネスプレディクション」を履修した場合、講義科目「データ科学」は心理学類の学類関連科目であるため、学類関連科目として卒業要件単位に参入される。一方、同じく PBL プログラム「ビジネスプレディクション」に含まれる講義科目「ビジネス・インプリメンテーション」は、知識情報システム学類の学類専門科目であり、心理学類の学類専門科目や学類関連科目に含まれないため、PBL プログラム科目として卒業要件単位に参入される。

また、上記の修正に当たって精査したところ、各学類の教育課程等の概要の「卒業要件及び履修方法」の「2. 専門科目(3)PBL プログラム科目」の記述に不備が見つかったため、下記のように修正する。

知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類：

(旧)

※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち
総合教養科目は総合教養科目として
自学類専門科目は自学類専門科目として
他学類専門科目は PBL プログラム科目として
それぞれ卒業要件単位に算入する。

(新)

※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち
総合教養科目は総合教養科目として
基礎教育科目は基礎教育科目として
自学類基盤科目は自学類基盤科目として
自学類専門科目は自学類専門科目として
他学類専門科目は PBL プログラム科目として
それぞれ卒業要件単位に算入する。

心理学類：

(旧)

※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち
総合教養科目は総合教養科目として
自学類専門科目は自学類専門科目として
他学類専門科目は PBL プログラム科目として
それぞれ卒業要件単位に算入する。

(新)

※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち
総合教養科目は総合教養科目として
基礎教育科目は基礎教育科目として
自学類専門科目は自学類専門科目として
自学類関連科目は自学類関連科目として
他学類専門科目は PBL プログラム科目として
それぞれ卒業要件単位に算入する。

なお、「データ科学」などの心理学類の学類関連科目について、「現代システム科学域 PBL 履修課程」の備考の記載に「＊心理科目」が漏れていたことから、併せて修正する。また、「現代システム科学域 PBL 履修課程」について、第一次専門審査における意見の現代システム科学域（共通）No. 7（P63）を踏まえ修正した事項を本審査意見の新旧対照表にも示し、さらに修正後の「現代システム科学域 PBL 履修課程」を以下に添付する。

現代システム科学域 PBLプログラム履修課程

PBLプログラム	科 目	単位 (○印必修)	週 時 間 数								履修を指定する科目数	卒業要件	備考	
			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
ビジネスブレディクション	プログラミング入門A	②		2							5科目		*基礎教育科目	
	ビジネス・インプレンテーション	②			2								*知識情報科目	
	ビジネス・アナリティクス	②				2							*知識情報科目	
	データ科学	②				2							*知識情報科目 *心理科目 *PBL科目	
生産システム科学	P B L 演 習	②					2				3科目	5科目以上	*知識情報科目	
	生産システム科学	②			2								*知識情報科目	
	生産管理システム	②				2					*知識情報科目			
	生産産科科学	②					2				*知識情報科目			
	AIプログラミング	2				2					*知識情報科目			
ヘルスケア科学	人工知能A	2					2				1科目以上		*知識情報科目	
	P B L 演 習	②						2					*知識情報科目 *PBL科目	
	医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	②		2							5科目		*心理科目	
	公衆衛生学	②			2								*農社システム	
	ヘルスケアシステム	②			2								*知識情報科目	
ヘルスケアサービス	②				2					*知識情報科目				
サービスデザイン	P B L 演 習	②						2			1科目		*PBL科目	
	コンピュータシステム	②						2					*知識情報科目	
	情報ネットワーク基礎	2			2						1科目以上		5科目以上	*知識情報科目
	データベース基礎	2				2								*知識情報科目
	マーケティング・サイエンス	②					2							*知識情報科目
ヒューマンコンピュータインタラクション	②						2			*知識情報科目				
教育情報システムデザイン	人工知能A	②					2				4科目			*知識情報科目
	P B L 演 習	②						2					*知識情報科目 *PBL科目	
	情報ネットワーク基礎	②			2						5科目		*知識情報科目	
	教育情報学	②				2							*知識情報科目	
	教育・学習の理論と設計	②					2						*知識情報科目	
人工知能B	②						2			*知識情報科目 *PBL科目				
情報ネットワークシステム	P B L 演 習	②						2			1科目	5科目以上	*PBL科目	
	プログラミング入門A	②		2									*基礎教育科目	
	情報ネットワーク基礎	②			2						3科目		*知識情報科目	
	コンピュータシステム	②				2							*知識情報科目	
	Webシステム構築基礎	2					2						*知識情報科目	
情報通信工学概論	2						2			*知識情報科目 *PBL科目				
環境学	P B L 演 習	②						2			1科目	5科目以上	*PBL科目	
	環境・生命・倫理	②	2										*総合教養科目	
	自然環境学概論	②		2							3科目		*総合教養科目	
	環境政策学	②				2							*総合教養科目	
	環境と環境	2			2								*農社システム	
	人間と居住環境	2			2								*総合教養科目	
	生命と環境	2			2						*総合教養科目			
	国際開発の課題	2			2						*総合教養科目			
	地域文化学	2			2						*総合教養科目			
大阪の自然	2			2						*総合教養科目				
地域再生	P B L 演 習	②						2			1科目	5科目以上	*PBL科目	
	大阪の都市づくり	②	2										*総合教養科目	
	地域実践演習	②		2							2科目		*環境システム	
	環境・生命・倫理	2	2										*総合教養科目	
	自然環境学概論	2		2									*総合教養科目	
公共政策学基礎	2			2						*環境システム科目 *心理科目 *PBL科目				
環境再生	P B L 演 習	②						2			1科目	5科目	*PBL科目	
	大阪の都市づくり	②	2										*総合教養科目	
	自然環境学概論	②		2							*総合教養科目			
	海城環境再生学	②				2					*環境システム			
	陸城環境再生学	②					2				*環境システム			
企業と持続可能な社会	P B L 演 習	②							2		5科目		*PBL科目	
	企業経済学	②					2						*環境システム	
	環境経済・経営学	②					2				*環境システム			
	経済活動と法	②			2						*環境システム			
	環境法1	②					2				*環境システム			
ESD-A (資格系)	P B L 演 習	②						2			3科目以上	5科目以上	*PBL科目	
	社会科教育法(公民分野)1A	2			2								*環境システム *教育福祉科目 *心理科目	
	社会科教育法(公民分野)2A	2			2						*環境システム *教育福祉科目 *心理科目			
	福祉科教育法A	2			2						*教育福祉科目			
	福祉科教育法B	2			2						*教育福祉科目			
	倫理学	2		2							*環境システム *教育福祉科目 *心理科目			
	政治学	2			2						*環境システム *教育福祉科目 *心理科目			
	社会学基礎	2			2						*環境システム *教育福祉科目 *心理科目			
	国際教育と開発	②			2						*環境システム *教育福祉科目 *心理科目			
ESD-A (資格系)	P B L 演 習	②					2				2科目		*PBL科目	
													*環境システム *教育福祉科目 *心理科目	

PBLプログラム	科 目	単位 (○印必修)	週 時 間 数								履修を指定する科目数	卒業要件	備 考
			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
ESD-B (資格系)	社会科教育法(地歴分野)1A	2			2						3科目以上	5科目以上	*環境シス科目 *教育福祉科目
	社会科教育法(地歴分野)2A	2			2								*環境シス科目 *教育福祉科目
	日 本 史 概 説	2			2								*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	外 国 会 社 史	2			2								*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	自 然 地 理 学	2			2								*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	国 際 教 育 と 開 発	②			2								*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	P B L 演 習	②					2				2科目	*PBL科目	
社会調査(資格系)	社 会 調 査 論 *	②			2						1科目	1科目以上	*環境シス科目 *環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	社 会 学 基 礎	2			2						*環境シス科目 *教育福祉科目		
	地 理 学 基 礎	2			2						*環境シス科目 *教育福祉科目		
	文 化 人 類 学 入 門	2			2						*総合教養科目		
	現代の社会問題と社会運動	2			2						*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目		
	環 境 社 会 学	2			2						*環境シス科目		
	質 的 調 査 法 *	2					2				*環境シス科目		
	資 料 分 析 法 *	2						2			*環境シス科目		
	調 査 設 計 法 *	2					2				*環境シス科目 *教育福祉科目		
	地 域 社 会 学	2			2						1科目以上	*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目	
	ジェンダーと社会	2			2						*総合教養科目		
	社会におけるネットワーク	2		2							*総合教養科目		
都市社会	社 会 と 統 計	2			2						1科目以上	*総合教養科目	
	P B L 演 習 *	②					2					1科目	*PBL科目
	文 化 と 景 観	2			2							*環境シス科目 *教育福祉科目	
	地 理 学 基 礎	2			2							*環境シス科目 *教育福祉科目	
	社 会 文 化 史	2			2							*環境シス科目	
	社 会 政 治 思 想	2			2							*環境シス科目 *教育福祉科目	
	都 市 と 経 済 の 地 理 学	2			2							*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目	
	地 域 研 究	2			2							5科目以上	*総合教養科目 *教育福祉科目
	大 阪 の 都 市 づ く り	2	2									*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目	
	共 生 の 思 想 と 歴 史	2			2						*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目		
	ジェンダーと社会	2			2						1科目以上	*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目	
	地 域 社 会 学	2			2						*教育福祉科目		
	教育福祉の諸問題C(多文化共生)	2			2						*環境シス科目 *心理科目		
	地 域 ・ 都 市 環 境 学	2			2						*心理科目		
環 境 心 理 学	2			2						*PBL科目			
文化表象	P B L 演 習	②					2				1科目	*環境シス科目	
	言 語 表 現 と 世 界 認 識	2			2						2科目以上	*環境シス科目	
	認 識 と レ ト リ ッ ク	2			2							*環境シス科目	
	地 域 社 会 の 言 語 環 境	2			2							*環境シス科目	
	デ イ ス コー ス と 社 会	2			2							*環境シス科目	
	グ ロー バ ル 社 会 の 文 化 表 象	2			2							*環境シス科目	
	文 化 表 象 と 社 会 批 評	2			2							*環境シス科目	
	言 語 の 社 会 シ ス テ ム	2			2							*環境シス科目	
	地 域 ・ 都 市 環 境 学	2			2							*環境シス科目 *心理科目	
	共 生 の 思 想 と 歴 史	2			2							*教育福祉科目	
	教育福祉の諸問題C(多文化共生)	2			2						*教育福祉科目		
	歴 史 の な か の 大 阪	2			2						*総合教養科目		
	国 際 文 化 の 視 点	2			2						*総合教養科目		
	こ と ば の 歴 史	2			2						*総合教養科目		
	エ ス ニ ッ ク ・ ス タ デ ィ	2			2						*総合教養科目		
	日 本 の 古 典 文 学	2			2						*総合教養科目		
世 界 の な か の 英 語	2			2						*総合教養科目			
P B L 演 習	②					2				1科目	*PBL科目		
共生の思想	社 会 文 化 史	2			2						1科目以上	*環境シス科目 *環境シス科目 *教育福祉科目	
	文 化 と 共 生	2			2							*環境シス科目	
	共生社会とアイデンティティ	2			2							*環境シス科目	
	現代社会の倫理学	2			2							*環境シス科目	
	環境哲学と現代社会	2			2							*環境シス科目	
	個人創造の思想史	2			2							*環境シス科目 *教育福祉科目	
	ジェンダーと社会	2			2						5科目以上	*環境シス科目 *教育福祉科目 *心理科目	
	共 生 の 思 想 と 歴 史	2			2						*教育福祉科目		
	教育福祉の諸問題C(多文化共生)	2			2						*教育福祉科目		
	共 生 社 会 と 宗 教	2			2						*総合教養科目		
P B L 演 習	②					2				1科目	*PBL科目		

PBLプログラム	科 目	単位 (○:必修)	週 時 間 数								履修を指定する科目数	卒業要件	備 考
			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
ジェンダー論	家 族 社 会 学	2			2						1科目以上	5科目以上	*教育福祉科目 *心理科目
	教育福祉の諸問題B(性と人権)	2			2								*教育福祉科目
	社 会 福 祉 原 論	2					2						*教育福祉科目
	共 生 の 思 想 と 歴 史	2				2							*福祉シス科目 *教育福祉科目 *心理科目
	ジェンダーと社会	2			2								*教育福祉科目
	教 育 福 祉 学 B	2			2						1科目以上		*教育福祉科目
	保 育 学 概 論	2		2									*教育福祉科目
	乳 児 保 育 論	2			2								*福祉シス科目 *心理科目
	異 文 化 の 理 解	2			2								*福祉シス科目 *教育福祉科目
	共生社会とアイデンティティ	2			2								*福祉シス科目 *教育福祉科目
	文 化 と 景 観	2			2						1科目以上		*福祉シス科目
	ディスコースと社会	2			2								*学域共通科目
	人間システムとサステイナビリティ	2	2										*総合教養科目
	ジェンダー論入門	2	2										*総合教養科目
	ジェンダーと現代社会	2			2								*総合教養科目
グローバル化と人権	2	2								1科目	*総合教養科目		
スポーツと社会	2	2									*総合教養科目		
文化と社会の心理学	2		2								*総合教養科目 *PBL科目		
P B L 演 習 ②	2					2					*教育福祉科目		
コラボレーション論	2					2					*教育福祉科目		
コラボレーション	教育の思想と歴史	2		2							4科目以上	5科目以上	*教育福祉科目
	スクール・ソーシャルワーク概論	2				2							*教育福祉科目
	特別支援教育	2					2						*教育福祉科目
	教育社会学	2		2									*教育福祉科目 *心理科目
	臨床心理学概論	2			2								*心理科目
	教育・学校心理学	2					2				1科目		*心理科目 *PBL科目
	P B L 演 習 ②	2					2						*教育福祉科目
地域および都市における排除・共生・参加	地域福祉論A	2			2						4科目以上	5科目以上	*教育福祉科目
	地域福祉論B	2			2								*教育福祉科目
	地域社会学	2			2								*教育福祉科目
	社会福祉原論	2					2						*教育福祉科目 *心理科目
	教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	2			2								*福祉シス科目 *教育福祉科目 *心理科目 *PBL科目
	環境哲学と現代社会	2			2						1科目		*福祉シス科目 *教育福祉科目 *心理科目 *PBL科目
	地理学基礎	2			2								*教育福祉科目
	地域研究	2			2								*教育福祉科目
生涯学習と設計	P B L 演 習 ②	2					2				1科目	5科目以上	*PBL科目
	社会教育入門	2			2								*教育福祉科目
	保育学概論	2		2							*教育福祉科目		
	心理学と心理的支援	2		2							*教育福祉科目		
	生涯学習概論	2			2						*教育福祉科目		
	生涯スポーツ指導	2			2						*教育福祉科目		
	教育福祉の諸問題C(多文化共生)	2			2						*教育福祉科目		
	社会教育計画	2					2				*知識情報科目		
	教育・学習の理論と設計	2					2				*知識情報科目 *PBL科目		
生活環境と情報	P B L 演 習 ②	2					2				2科目	5科目以上	*基礎教育科目 *心理科目
	プログラミング入門B	②	2				2						*総合教養科目
	認知情報処理	②					2				*総合教養科目		
	科学技術と社会	2		2							*知識情報科目		
	社会におけるネットワーク	2		2							*知識情報科目		
	AIプログラミング	2				2					*知識情報科目		
	人工知能A	2					2				*心理科目 *PBL科目		
環境心理学	2			2						*教育福祉科目			
P B L 演 習 ②	2					2				*心理科目 *PBL科目			
生きていると遊び	発達心理学	2			2						4科目以上	5科目以上	*心理科目
	環境心理学	2			2								*心理科目
	心の病理学(精神疾患とその治療)	2				2							*心理科目
	心理療法論(心理学的支援法)	2					2						*心理科目
	文化人類学入門	2			2								*総合教養科目 *福祉シス科目 *心理科目
	異文化の理解	2			2						*総合教養科目		
	現代社会と健康	2		2							*知識情報科目		
	ヘルスケアサービス	2				2					*教育福祉科目		
	精神保健心理学	2					2				*福祉シス科目 *PBL科目		
P B L 演 習 ②	2					2				*福祉シス科目 *教育福祉科目 *教育福祉科目 *心理科目 *総合教養科目 *教育福祉科目 *総合教養科目 *教育福祉科目 *PBL科目			
教育保障	地域実践演習②	②	2								2科目	5科目以上	*福祉シス科目
	特別支援教育学	②						2					*教育福祉科目
	教育社会学	2		2							*教育福祉科目		
	教育・学校心理学	2						2			*心理科目		
	スクール・ソーシャルワーク概論	2				2					*教育福祉科目		
	大阪の都市づくり	2	2								*総合教養科目		
	心理学と心理的支援	2		2							*教育福祉科目 *PBL科目		
P B L 演 習 ②	2					2							

PBLプログラムの履修について

- 卒業までに少なくとも1つのPBLプログラムを修了する必要があります。
- 各プログラムを修了するためには、「履修を指定する科目数」に記載された数の授業科目分の単位を修得する必要があります。
- 全学類において、PBLプログラムで修得した単位は、総合教養科目は総合教養科目として、基礎教育科目は基礎教育科目として、自学類専門科目は自学類専門科目として、PBL演習、他学類基礎科目、他学類専門科目はPBLプログラム科目として、それぞれ卒業要件単位に算入されます。
- また、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類においては、自学類基礎科目は自学類基礎科目として卒業要件単位に算入されます。心理学類においては、自学類関連科目は自学類関連科目として卒業要件単位に算入されます。
- 履修するPBLプログラムを決める前に、複数のPBLプログラムの授業科目を履修することができます。
- 「PBLプログラム履修課程」に記される授業科目は、最終的に選択したプログラム以外の授業科目も含めて、全て上記の基準で卒業要件単位に算入されます。

PBLプログラムの履修について

- 卒業までに少なくとも1つのPBLプログラムを修了する必要があります。
- 各プログラムを修了するためには、「履修を指定する科目数」に記載された数の授業科目分の単位を修得する必要があります。
- 全学類において、PBLプログラムで修得した単位は、総合教養科目は総合教養科目として、基礎教育科目は基礎教育科目として、自学類専門科目は自学類専門科目として、PBL演習、他学類基盤科目、他学類専門科目はPBLプログラム科目として、それぞれ卒業要件単位に算入されます。
- また、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類においては、自学類基盤科目は自学類基盤科目として卒業要件単位に算入されます。心理学類においては、自学類関連科目は自学類関連科目として卒業要件単位に算入されます。
- 履修するPBLプログラムを決める前に、複数のPBLプログラムの授業科目を履修することができます。
- 「PBLプログラム履修課程」に含まれる授業科目は、最終的に選択したプログラム以外の授業科目も含めて、全て上記の基準で卒業要件単位に算入されます。

(新旧対照表) 現代システム科学域 心理学類 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－6、8、14 ページ) 卒業要件及び履修方法 心理学類 学士 (心理学) 【卒業要件】 (略) 【履修方法】 1. 基幹教育科目 (略) 2. 専門科目 (略) (3)PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 基礎教育科目は基礎教育科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 自学類関連科目は自学類関連科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) 未来デザインコース (FDC) 学士 (学術) 【卒業要件】 (略) (4)PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として	((再補正前) 教育課程－6、8、14 ページ) 卒業要件及び履修方法 心理学類 学士 (心理学) 【卒業要件】 (略) 【履修方法】 1. 基幹教育科目 (略) 2. 専門科目 (略) (3)PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) 未来デザインコース (FDC) 学士 (学術) 【卒業要件】 (略) (4)PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として

基礎教育科目は基礎教育科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 自学類関連科目は自学類関連科目として 他学類専門科目はPBLプログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) ((再補正後) 教育課程ー15、16、17 ページ) 現代システム科学域 PBL プログラム履修課程 PBL プログラム ビジネスプレディクション 科目 データ科学 備考 * 知識情報科目 * 心理科目 PBL プログラム 生産システム科学 履修を指定する科目数 5 科目以上 科目 AI プログラミング 人工知能 A 履修を指定する科目数 1 科目以上 PBL プログラム サービスデザイン 履修を指定する科目数 5 科目以上 科目 コンピュータシステム 情報ネットワーク基礎	自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目はPBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) ((再補正前) 教育課程ー15、16、17 ページ) 現代システム科学域 PBL プログラム履修課程 PBL プログラム ビジネスプレディクション 科目 データ科学 備考 * 知識情報科目 PBL プログラム 生産システム科学 履修を指定する科目数 5 科目 科目 AI プログラミング 人工知能 A 履修を指定する科目数 1 科目 PBL プログラム サービスデザイン 履修を指定する科目数 5 科目 科目 コンピュータシステム 情報ネットワーク基礎
--	---

データベース基礎 履修を指定する科目数 1 科目 以上 PBL プログラム 情報ネットワークシステム 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 Web システム構築基礎 情報通信工学概論 履修を指定する科目数 1 科目 以上 PBL プログラム 環境学 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 技術と環境 人間と居住環境 生命と環境 国際開発の課題 地域文化学 大阪の自然 履修を指定する科目数 1 科目 以上 PBL プログラム 地域再生 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 環境・生命・倫理 自然環境学概論 公共政策学基礎 履修を指定する科目数 2 科目 以上 備考	データベース基礎 履修を指定する科目数 1 科目 PBL プログラム 情報ネットワークシステム 履修を指定する科目数 5 科目 科目 Web システム構築基礎 情報通信工学概論 履修を指定する科目数 1 科目 PBL プログラム 環境学 履修を指定する科目数 5 科目 科目 技術と環境 人間と居住環境 生命と環境 国際開発の課題 地域文化学 大阪の自然 履修を指定する科目数 1 科目 PBL プログラム 地域再生 履修を指定する科目数 5 科目 科目 環境・生命・倫理 自然環境学概論 公共政策学基礎 履修を指定する科目数 2 科目 備考
---	---

(科目 公共政策学基礎) * 環社シス科目 * 心理科目 PBL プログラム ESD-A (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 社会科教育法 (公民分野) 1A 社会科教育法 (公民分野) 2A 福祉科教育法 A 福祉科教育法 B 倫理学 政治学 社会学基礎 履修を指定する科目数 3 科目 以上 備考 (科目 社会科教育法 (公民分野) 1A) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 (科目 社会科教育法 (公民分野) 2A) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 PBL プログラム ESD-B (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 社会科教育法 (地歴分野) 1A 社会科教育法 (地歴分野) 2A 日本史概説 外国史 自然地理学 履修を指定する科目数	(科目 公共政策学基礎) * 環社シス科目 PBL プログラム ESD-A (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 科目 社会科教育法 (公民分野) 1A 社会科教育法 (公民分野) 2A 福祉科教育法 A 福祉科教育法 B 倫理学 政治学 社会学基礎 履修を指定する科目数 3 科目 備考 (科目 社会科教育法 (公民分野) 1A) * 教職科目 (環社シス) * 教育福祉科目 * 教職科目 (心理) (科目 社会科教育法 (公民分野) 2A) * 教職科目 (環社シス) * 教育福祉科目 * 教職科目 (心理) PBL プログラム ESD-B (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 科目 社会科教育法 (地歴分野) 1A 社会科教育法 (地歴分野) 2A 日本史概説 外国史 自然地理学 履修を指定する科目数
--	---

3 科目 以上 備考 (科目 社会科教育法 (地歴分野) 1A) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 (科目 社会科教育法 (地歴分野) 2A) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 PBL プログラム 社会調査 (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 社会学基礎 地理学基礎 文化人類学入門 履修を指定する科目数 1 科目 以上 科目 現代の社会問題と社会運動 環境社会学 質的調査法 * 資料分析法 * 調査設計法 * 履修を指定する科目数 1 科目 以上、ただし社会調査士取得のためには*科目が必修 科目 地域社会学 ジェンダーと社会 社会におけるネットワーク 社会と統計 履修を指定する科目数 1 科目 以上 備考	3 科目 備考 (科目 社会科教育法 (地歴分野) 1A) <u>* 教職科目 (環社シス)</u> * 教育福祉科目 <u>* 教職科目 (心理)</u> (科目 社会科教育法 (地歴分野) 2A) <u>* 教職科目 (環社シス)</u> * 教育福祉科目 <u>* 教職科目 (心理)</u> PBL プログラム 社会調査 (資格系) 履修を指定する科目数 5 科目 科目 社会学基礎 地理学基礎 文化人類学入門 履修を指定する科目数 1 科目 科目 現代の社会問題と社会運動 環境社会学 質的調査法 * 資料分析法 * 調査設計法 * 履修を指定する科目数 1 科目、ただし社会調査士取得のためには*科目が必修 科目 地域社会学 ジェンダーと社会 社会におけるネットワーク 社会と統計 履修を指定する科目数 1 科目 備考
---	---

(科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 PBL プログラム 都市社会 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 文化と景観 地理学基礎 社会文化史 社会政治思想 都市と経済の地理学 地域研究 履修を指定する科目数 1 科目 以上 科目 大阪の都市づくり 共生の思想と歴史 ジェンダーと社会 地域社会学 教育福祉の諸問題 C (多文化共生) 地域・都市環境学 環境心理学 履修を指定する科目数 1 科目 以上 備考 (科目 地域研究) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 (科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 (科目 地域・都市環境学) * 環社シス科目	(科目 ジェンダーと社会) * 教育福祉科目 PBL プログラム 都市社会 履修を指定する科目数 5 科目 科目 文化と景観 地理学基礎 社会文化史 社会政治思想 都市と経済の地理学 地域研究 履修を指定する科目数 1 科目 科目 大阪の都市づくり 共生の思想と歴史 ジェンダーと社会 地域社会学 教育福祉の諸問題 C (多文化共生) 地域・都市環境学 環境心理学 履修を指定する科目数 1 科目 備考 (科目 地域研究) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 (科目 ジェンダーと社会) * 教育福祉科目 (科目 地域・都市環境学) * 環社シス科目
---	--

*心理科目 PBL プログラム 文化表象 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 言語表現と世界認識 認識とレトリック 地域社会の言語環境 ディスコースと社会 グローバル社会の文化表象 文化表象と社会批評 言語の社会システム 履修を指定する科目数 2 科目 以上 科目 地域・都市環境学 共生の思想と歴史 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 歴史のなかの大阪 国際文化の視点 ことばの歴史 エスニック・スタディ 日本の古典文学 世界のなかの英語 履修を指定する科目数 1 科目 以上 備考 （科目 地域・都市環境学） *環社シス科目 *心理科目 PBL プログラム 共生の思想 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 社会文化史	PBL プログラム 文化表象 履修を指定する科目数 5 科目 科目 言語表現と世界認識 認識とレトリック 地域社会の言語環境 ディスコースと社会 グローバル社会の文化表象 文化表象と社会批評 言語の社会システム 履修を指定する科目数 2 科目 科目 地域・都市環境学 共生の思想と歴史 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 歴史のなかの大阪 国際文化の視点 ことばの歴史 エスニック・スタディ 日本の古典文学 世界のなかの英語 履修を指定する科目数 1 科目 備考 （科目 地域・都市環境学） *環社シス科目 PBL プログラム 共生の思想 履修を指定する科目数 5 科目 科目 社会文化史
---	---

文化と共生 共生社会とアイデンティティ 現代社会の倫理学 環境哲学と現代社会 個人創造の思想史 履修を指定する科目数 1 科目 以上 科目 ジェンダーと社会 共生の思想と歴史 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 共生社会と宗教 履修を指定する科目数 1 科目 以上 備考 (科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 PBL プログラム ジェンダー論 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 家族社会学 教育福祉の諸問題 B（性と人権） 社会福祉原論 共生の思想と歴史 ジェンダーと社会 教育福祉学 B 保育学概論 乳児保育論 履修を指定する科目数 1 科目 以上 科目 異文化の理解 共生社会とアイデンティティ 文化と景観	文化と共生 共生社会とアイデンティティ 現代社会の倫理学 環境哲学と現代社会 個人創造の思想史 履修を指定する科目数 1 科目 科目 ジェンダーと社会 共生の思想と歴史 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 共生社会と宗教 履修を指定する科目数 1 科目 備考 (科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 PBL プログラム ジェンダー論 履修を指定する科目数 5 科目 科目 家族社会学 教育福祉の諸問題 B（性と人権） 社会福祉原論 共生の思想と歴史 ジェンダーと社会 教育福祉学 B 保育学概論 乳児保育論 履修を指定する科目数 1 科目 科目 異文化の理解 共生社会とアイデンティティ 文化と景観
---	---

ディスコースと社会 人間システムとサステイナビリティ ジェンダー論入門 ジェンダーと現代社会 グローバル化と人権 スポーツと社会 文化と社会の心理 履修を指定する科目数 1 科目 以上 備考 (科目 家族社会学) * 教育福祉科目 * 心理科目 (科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 備考 (科目 異文化の理解) * 環社シス科目 * 心理科目 PBL プログラム コラボレーション 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 コラボレーション論 教育の思想と歴史 スクール・ソーシャルワーク概論 特別支援教育 教育社会学 臨床心理学概論 教育・学校心理学 履修を指定する科目数 4 科目 以上 PBL プログラム	ディスコースと社会 人間システムとサステイナビリティ ジェンダー論入門 ジェンダーと現代社会 グローバル化と人権 スポーツと社会 文化と社会の心理 履修を指定する科目数 1 科目 備考 (科目 家族社会学) * 教育福祉科目 (科目 ジェンダーと社会) * 環社シス科目 * 教育福祉科目 備考 (科目 異文化の理解) * 環社シス科目 PBL プログラム コラボレーション 履修を指定する科目数 5 科目 科目 コラボレーション論 教育の思想と歴史 スクール・ソーシャルワーク概論 特別支援教育 教育社会学 臨床心理学概論 教育・学校心理学 履修を指定する科目数 4 科目 PBL プログラム
--	--

地域および都市における排除・共生・参加 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 地域福祉論 A 地域福祉論 B 地域社会学 社会福祉原論 教育福祉の諸問題 A（貧困と社会） 環境哲学と現代社会 地理学基礎 地域研究 履修を指定する科目数 4 科目 以上 備考 （科目 教育福祉の諸問題 A（貧困と社会）） * 教育福祉科目 * 心理科目 備考 （科目 地域研究） * 環社シス科目 * 教育福祉科目 * 心理科目 PBL プログラム 生涯学習と設計 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 社会教育入門 保育学概論 心理学と心理的支援 生涯学習概論 生涯スポーツ指導 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 社会教育計画 教育情報学	地域および都市における排除・共生・参加 履修を指定する科目数 5 科目 科目 地域福祉論 A 地域福祉論 B 地域社会学 社会福祉原論 教育福祉の諸問題 A（貧困と社会） 環境哲学と現代社会 地理学基礎 地域研究 履修を指定する科目数 4 科目 備考 （科目 教育福祉の諸問題 A（貧困と社会）） * 教育福祉科目 備考 （科目 地域研究） * 環社シス科目 * 教育福祉科目 PBL プログラム 生涯学習と設計 履修を指定する科目数 5 科目 科目 社会教育入門 保育学概論 心理学と心理的支援 生涯学習概論 生涯スポーツ指導 教育福祉の諸問題 C（多文化共生） 社会教育計画 教育情報学
---	---

教育・学習の理論と設計 履修を指定する科目数 4 科目 以上 PBL プログラム 生活環境と情報 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 科学技術と社会 社会におけるネットワーク A I プログラミング 人工知能 A 環境心理学 履修を指定する科目数 2 科目 以上 PBL プログラム 生きることと遊び 履修を指定する科目数 5 科目 以上 科目 発達心理学 2 環境心理学 心の病理学（精神疾患とその治療） 心理療法論（心理学的支援法） 文化人類学入門 異文化の理解 現代社会と健康 ヘルスケアサービス 精神保健学 履修を指定する科目数 4 科目 以上 備考 (科目 異文化の理解) * 環社シス科目 * 心理科目 PBL プログラム	教育・学習の理論と設計 履修を指定する科目数 4 科目 PBL プログラム 生活環境と情報 履修を指定する科目数 5 科目 科目 科学技術と社会 社会におけるネットワーク A I プログラミング 人工知能 A 環境心理学 履修を指定する科目数 2 科目 PBL プログラム 生きることと遊び 履修を指定する科目数 5 科目 科目 発達心理学 2 環境心理学 心の病理学（精神疾患とその治療） 心理療法論（心理学的支援法） 文化人類学入門 異文化の理解 現代社会と健康 ヘルスケアサービス 精神保健学 履修を指定する科目数 4 科目 備考 (科目 異文化の理解) * 環社シス科目 PBL プログラム
--	--

教育保障 履修を指定する科目数 5 科目以上 科目 教育社会学 教育・学校心理学 スクール・ソーシャルワーク概論 大阪の都市づくり 心理学と心理的支援 履修を指定する科目数 2 科目以上 PBL プログラムの履修について ・卒業までに少なくとも1つのPBLプログラムを修了する必要があります。 ・各プログラムを修了するためには、「履修を指定する科目数」に記載された数の授業科目分の単位を修得する必要があります。 ・全学類において、PBL プログラムで修得した単位は、総合教養科目は総合教養科目として、基礎教育科目は基礎教育科目として、自学類専門科目は自学類専門科目として、PBL 演習、他学類基盤科目、他学類専門科目はPBL プログラム科目として、それぞれ卒業要件単位に算入されます。 ・また、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類においては、自学類基盤科目は自学類基盤科目として卒業要件単位に算入されます。心理学類においては、自学類関連科目は自学類関連科目として卒業要件単位に算入されます。 ・履修するPBL プログラムを決める前に、複数のPBL プログラムの授業科目を履修することができます。 ・「PBL プログラム履修課程」に含まれる授業科目は、最終的に選択したプログラム以外の授業科目も含めて、全て上記の基準で卒業要件単位に算入されます。	教育保障 履修を指定する科目数 5 科目 科目 教育社会学 教育・学校心理学 スクール・ソーシャルワーク概論 大阪の都市づくり 心理学と心理的支援 履修を指定する科目数 2 科目 (追加)
---	--

※知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類の「現代システム科学域 PBL プログラム履修課程」についても、上記と同様の修正を行う。	
---	--

(新旧対照表) 現代システム科学域 知識情報システム学類 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－6、8、14 ページ) 卒業要件及び履修方法 知識情報システム学類 学士 (情報学) 【卒業要件】 (略) 【履修方法】 1. 基幹教育科目 (略) 2. 専門科目 (略) (4) PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む)) PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 基礎教育科目は基礎教育科目として 自学類基盤科目は自学類基盤科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) 未来デザインコース (FDC) 学士 (学術) 【卒業要件】 (略) (4) PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む)	((再補正前) 教育課程－6、8、14 ページ) 卒業要件及び履修方法 知識情報システム学類 学士 (情報学) 【卒業要件】 (略) 【履修方法】 1. 基幹教育科目 (略) 2. 専門科目 (略) (4) PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む) ※2 単位を含む PBL プログラム (別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照) を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) 未来デザインコース (FDC) 学士 (学術) 【卒業要件】 (略) (4) PBL プログラム科目 2 単位以上 (選択 2 単位を含む)

※2 単位を含む PBL プログラム（別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 基礎教育科目は基礎教育科目として 自学類基盤科目は自学類基盤科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略) ※環境社会システム学類及び教育福祉学類の教育課程等の概要において、上記と同様の修正を行う。	※2 単位を含む PBL プログラム（別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」参照）を 1 つ以上修了すること ※別紙「現代システム科学域 PBL 履修課程」に含まれる科目のうち 総合教養科目は総合教養科目として 自学類専門科目は自学類専門科目として 他学類専門科目は PBL プログラム科目として それぞれ卒業要件単位に算入する。 (略)
---	---

(新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) 53、54 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件ウ 卒業要件 本学域では、下表の単位を各学類の卒業要件とする。基幹教育科目のうち、大学での学びの導入科目である初年次教育科目 (2 単位)、ならびに道具科目として位置付けている英語 (6 単位)、初修外国語 (2 単位)、情報リテラシー (2 単位)、健康・スポーツ科学 (3 単位) の各科目を必修とし、総合教養科目 (10 単位以上) は多くの選択肢を与えたうえで選択とする。同じく道具科目として位置付けている数学、プログラミングなどの基礎教育科目は、各学類の専門性に合わせて必修と選択を適宜配置し、要卒単位も各学類の専門性に合わせて 4 単位から 12 単位と設定する。専門科目のうち学域	(設置趣旨 (本文) 49 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件ウ 卒業要件 本学域では、下表の単位を各学類の卒業要件とする。基幹教育科目のうち、大学での学びの導入科目である初年次教育科目 (2 単位)、ならびに道具科目として位置付けている英語 (6 単位)、初修外国語 (2 単位)、情報リテラシー (2 単位)、健康・スポーツ科学 (3 単位) の各科目を必修とし、総合教養科目 (10 単位以上) は多くの選択肢を与えたうえで選択とする。同じく道具科目として位置付けている数学、プログラミングなどの基礎教育科目は、各学類の専門性に合わせて必修と選択を適宜配置し、要卒単位も各学類の専門性に合わせて 4 単位から 12 単位と設定する。専門科目のうち学域

共通科目（12 単位以上）では、**必修科目**として「システムとサステナビリティ」科目群（4 科目 8 単位）と各学類の概論科目（2 単位）をそれぞれの学類の必修とし、その他を選択とする。また学類専門科目は基本的に選択とする。さらに学類基盤科目（心理学類は学類専門科目）に必修科目として各学類の「卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は 270 時間程度を想定していることから、卒業研究には 6 単位を与える。卒業研究の指導は、1 名の指導教員と 1 名以上の副指導教員により行い、各学類単位で学期末に行われる卒業論文発表会および口頭試問において、卒業論文の内容が各学類のディプロマポリシーを達成していると指導教員に認められた場合に卒業研究の単位を与える。**なお、FDC の卒業要件の詳細については、後述の「23 未来デザインプログラム」を参照願いたい。**

一方、PBL プログラムについては、全ての学類における卒業要件として、いずれかのコース 1 つ以上履修することとしている。各 PBL プログラムは、PBL 演習及び 4 科目以上の講義科目等から構成し、プログラムごとに PBL プログラム上の必修科目や選択必修科目を設定している。PBL プログラムごとに設定した PBL 演習（2 単位）及び 4 科目（8 単位）以上を修得することで PBL プログラムを修了することができる。

各 PBL プログラムを構成する講義科目等の単位の考え方は、講義科目等は総合教養科目、基礎教育科目、学類基盤科目、学類専門科目のいずれかであるため、PBL プログラムに含まれる科目であっても、総合教養科目は総合教養科目として、基礎教育科目は基礎教育科目として、自学類専門科目は自学類専門科目として卒業要件単位に算入する。また、知識情報システム学類、環

共通科目（12 単位以上）では、**必修科目**として「システムとサステナビリティ」科目群（4 科目 8 単位）と各学類の概論科目（2 単位）をそれぞれの学類の必修とし、その他を選択とする。また学類専門科目は基本的に選択とする。さらに学類基盤科目（心理学類は学類専門科目）に必修科目として各学類の「卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は 270 時間程度を想定していることから、卒業研究には 6 単位を与える。卒業研究の指導は、1 名の指導教員と 1 名以上の副指導教員により行い、各学類あるいは課程単位で学期末に行われる卒業論文発表会および口頭試問において、卒業論文の内容が各学類のディプロマポリシーを達成していると指導教員に認められた場合に卒業研究の単位を与える。**なお、FDC の卒業要件の詳細については、後述の「23 未来デザインプログラム」を参照願いたい。**

(略)

境社会システム学類、教育福祉学類においては、自学類基盤科目は自学類基盤科目として卒業要件単位に算入する。各 PBL プログラムに含まれる PBL 演習、他学類基盤科目、他学類専門科目は、PBL プログラム科目として卒業要件単位に算入する。ただし、心理学類のみに置かれる学類関連科目について、心理学類の学生が履修した場合には学類関連科目として卒業要件単位に算入する。

学生は、履修する PBL プログラムを決める前に、複数の PBL プログラムの授業科目を履修することができる。「PBL プログラム履修課程」に含まれる授業科目は、最終的に選択したプログラム以外の授業科目も含めて、全て上記の基準で卒業要件単位に算入する。

以上のような仕組みにより、同一の PBL プログラムの授業科目と各学類の履修要件の授業科目を重複して卒業単位に算入することがないこと、学生の負担が過剰にならないことを両立する。

(略)

(その他) 現代システム科学域心理学類

誤記や不備に伴う修正

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

1. 「心理学概論」に係る修正

現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類において「また、同じく初年次に学域共通科目として「知識情報システム学概論」「環境社会システム学概論」「教育福祉学概論」「心理学概論」(全8単位)を配置し、・・・(略)・・・2回から14回までは、各々の科目において各学類で学ぶ主な教育研究分野の基礎や学類の学びのアプローチの特徴などについて講義する。また、第15回目に共通の総括を設定し、知識情報システム学、環境社会システム学、教育福祉学、心理学の観点から見た領域横断的応用力について講義する。このとき、4つの科目の担当者代表が全員登壇し、対談形式で各学類のつながりについて解説する時間を設ける。」としたが、本講義のシラバスにこの計画が十分に反映されていなかった。これを是正すべく心理学概論のシラバスを以下のように修正した。

まず初回のオリエンテーションにおいて、現代システム科学域の教育理念と、その中の心理学類の位置付けと役割、心理学類の3ポリシーについて解説する。さらに、1年次前期必修科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」との関連性について解説する旨を記した。

次に第15回目にて心理学概論、知識情報システム学概論、環境社会システム学概論、教育福祉学概論の代表教員による「対談を通じた総括」を行うことを明記した。なお対談にあたっては、代表教員はそれぞれの担当科目内で学生から出された質問を各科目の代表教員と事前に共有し、15回目の講義ではその質問に答える形で対談を行うことを視野に入れる。また、心理学概論の代表教員は、「心理学概論」の講義内で学生から出された持続可能性に関する質問を、知識情報システム学概論、環境社会システム学概論、教育福祉学概論の代表教員と事前に共有し、15回目の講義ではその質問に対して4人の代表教員がそれぞれ異なった視点から回答する形で対談を進める。この方法を取ることで講義における教員と学生の双方向性を高めるとともに、持続可能性というキー概念に対する複眼的・領域横断的な理解の手助けを行う。

授業名称		担当教員氏名	
心理学概論		牧岡省吾	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	1 後	必修	講義

授業概要
心理学の基本的な視点、方法論を学ぶための科目である。この授業では、心の発達、学習・記憶、感覚・知覚、思考・言語について、代表的な研究の事例を学ぶことによって基本的な知識を得ることを目指す。また同時に、1年次前期に配当される「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」の内容と関連付けながら、心理学が持続可能な社会の実現にどのように貢献するのかについて学ぶ。 また、授業中に適宜実験を行うことで、心理学の方法論を体験を通して学ぶことを目指す。なお、この授業では meaQs (meanings well up from the Question sharing!) による授業時間外学習を課す。 ※本科目は、公認心理師の受験資格を得るために必要な科目である。
到達目標
・心の発達、学習・記憶、感覚・知覚、思考・言語、心理学の方法論について、基本的な知識を問う問題に答えることができる。 ・心理学が持続可能な社会の実現にどのように貢献するのかについて説明することができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション：現代システム科学域の教育理念と、その中の心理学類の位置付けと役割、心理学類の3ポリシーについて解説する。さらに、1年次前期必修科目「情報システムとサステイナビリティ」「自然システムとサステイナビリティ」「社会システムとサステイナビリティ」「人間システムとサステイナビリティ」との関連性について解説する。	授業支援システムで事前配付するシラバス、資料等を確認しておく。
第2回	心と環境の相互作用を解明するための方法論 (心理学はどのような方法で心について研究するのか)	教科書第1章を読む。 meaQs による学習を行う。
第3回	行動の基本様式 (単純な行動と複雑な行動の違いについて)	教科書第2章 (p. 39 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第4回	発達研究の方法論 (乳児の心をどのように研究するか)	教科書第2章 (p. 47 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第5回	発達、遺伝と環境の相互作用	教科書第3章を読む。

	(遺伝と環境は心の発達にどのように影響するのか)	meaQs による学習を行う。
第6回	記憶研究の方法論、条件付け (動物の心をどのように研究するか)	教科書第4章 (p. 81 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第7回	短期記憶と長期記憶 (記憶を測定する方法について解説する。授業内で簡単な実験を行う。)	教科書第4章 (p. 93 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第8回	記憶の神経学的基礎 (記憶はどのように脳に保存されるのか)	教科書第4章 (p. 100 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第9回	感覚・知覚研究の方法論、心理物理学的測定 (感覚を測定する方法について解説する。授業内で簡単な実験を行う。)	教科書第5章 (p. 110 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第10回	視覚の神経学的基礎、低次視覚 (見ることの仕組みをどのように研究するか)	教科書第5章 (p. 132 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第11回	高次視覚、視覚に関する脳損傷 (見ることは脳のどこで行われているのか)	教科書第5章 (p. 151 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第12回	聴覚、体性感覚 (聴覚、触覚の仕組みについて)	教科書第5章 (p. 166 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第13回	思考・言語研究の方法論、思考の発達 (考えることの仕組みをどのように研究するか)	教科書第6章 (p. 176 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第14回	推論・言語 (言語の仕組みをどのように研究するか)	教科書第6章 (p. 210 まで) を読む。 meaQs による学習を行う。
第15回	人間システムの観点から見た持続可能性 (サステナビリティの定義、心理学の方法論が持続可能社会の実現にどのように役立つのか、現代から未来へのつながりなど) について解説する。 また知識情報システム学概論、環境社会システム学概論、教育福祉学概論の代表教員との対談形式による総括を行う。	授業支援システムで事前配付する資料を確認しておく。
第16回	期末試験	

成績評価方法
到達目標の達成度で成績評価を行う。単位を取得するためには、 ・心理学の基本的な方法論について、半分以上の設問に正しく答えられること。 ・心理発達に関する基本的な概念について、半分以上の設問に正しく答えられること。 ・記憶・学習に関する基本的な概念について、半分以上の設問に正しく答えられること。 ・感覚・知覚に関する基本的な概念について、半分以上の設問に正しく答えられること。 ・言語に関する基本的な概念について、半分以上の設問に正しく答えられること。 ・心理学が持続可能な社会の実現にどのように貢献するのかについて説明できること。 の6点を達成することが求められる。 成績を評価する方法として、期末試験とミニツツペーパーの提出（15回）を用いる。成績評価に占める割合は、期末試験（65%）、meaQsへの参加（15%）、ミニツツペーパー（20%）である。
履修上の注意
関連科目：人間システムとサステナビリティ、認知科学1（知覚・認知心理学）、認知科学2（学習・言語心理学）
教科書
鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編） 心理学〔第5版補訂版〕 東京大学出版会 毎回の授業でも資料を配付する。
参考文献
授業中に適宜紹介する。

（新旧対照表）現代システム科学域 心理学類 シラバス

新	旧
※修正したシラバスの項目を示す。 （シラバス-5、6ページ） 心理学概論 ・各回の授業内容	（シラバス-5、6ページ） 心理学概論

2. その他の修正

誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

（新旧対照表）現代システム科学域 心理学類 審査意見への対応を記載した書類（3月）

新	旧
（意見対応（3月）（本文）－33ページ） 審査意見 6	（意見対応（3月）（本文）－33ページ） 審査意見 6

(新旧対照表) 教育課程等の概要 新欄 授業科目名変更 学域共通科目 「心理学概論」 (略)	(新旧対照表) 教育課程等の概要 新欄 授業科目名変更 学域興津科目 「心理学概論」 (略)
---	---